

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 4 月 22 日 (2021.4.22)

【公開番号】特開 2019-163214 (P2019-163214A)

【公開日】令和 1 年 9 月 26 日 (2019.9.26)

【年通号数】公開・登録公報 2019-039

【出願番号】特願 2018-51191 (P2018-51191)

【国際特許分類】

A 0 1 N 47/30 (2006.01)

A 0 1 P 3/00 (2006.01)

A 0 1 N 37/34 (2006.01)

A 0 1 N 63/30 (2020.01)

【F I】

A 0 1 N 47/30 C

A 0 1 P 3/00

A 0 1 N 37/34 1 0 4

A 0 1 N 63/04 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 3 月 3 日 (2021.3.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 9】

試験例 4：殺菌剤（TPN 剤及びタラロマイセスフラバス剤）との併用試験（ピシウム属菌に対する防除効果）

(1) 病原菌の接種

ベントグラス種子培地で 2 週間培養したピシウム属菌の菌叢を 0.14% 質量になるように培土（商品名：平成培土）に混入し、汚染土壌とした

(2) 試験植物の育成

1/32 標準育苗箱大のプラスチックケースに汚染土壌を 100 ml 充填し、催芽したイネ種子（品種：コシヒカリ）5 g（乾物相当）を播種した。薬剤処理区及び無処理区につき各々 2 反復実施した。覆土後は 30℃ で 3 日間出芽したのち、4℃ に 2 日間低温遭遇させ、以降は 18～30℃ の紫外線透過フィルム温室内で 12 日間生育させた。

(3) 薬剤処理

播種後、ダイムロンと TPN 剤（テトラクロロイソフタロニトリル、一般名クロロタロニル）またはタラロマイセス・フラバス剤を所定量混合して通常の方法により調製した混合剤と、対照剤（ダイムロン、TPN 剤またはタラロマイセス・フラバス剤の各単剤）を表 4 に記載した所定濃度になるように希釈、灌注処理し、健全な培土で覆土した。

(4) 防除効果調査

播種 13 日後、イネの根を水で洗い、全苗について発病程度を下記の基準に従い調査し、下式に従い発病度及び、防除価を算出した

発病程度 0：健全苗、1：草丈が健全苗の 1/2 以上で葉齢進展が遅い、2：草丈が健全苗の 1/2 未満、3：枯死。

発病度 = $\left[\frac{\text{程度別発病苗数} \times \text{発病程度}}{\text{調査苗数} \times 3} \right] \times 100$

防除価 = $100 - \left[1 - \left(\frac{\text{処理区の発病度}}{\text{無処理区の発病度}} \right) \right] \times 100$

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

試験例8：処理時期の違いによるイネ健苗育成効果

ダイムロン20質量%顆粒水和剤200倍液を、(1)播種前、(2)播種時覆土前、(3)播種時覆土後、(4)出芽後の4時期にそれぞれ灌注処理し、イネの根部の生育を調査した。対照として、ヒドロキシイソキサゾール30質量%液剤（商品名：タチガレン（登録商標）液剤）500倍液を(2)播種時覆土前、(4)出芽後にそれぞれ灌注処理した。

1/15標準育苗箱大のプラスチックケースに育苗培土（商品名：いばらき培土）を充填し、催芽した水稻種子（品種：コシヒカリ）を乾粒相当で10g播種した。薬剤処理は上記の時期に33ml/区実施した。播種後は22/35で管理された人工気象室内で3日間出芽させた後、15/22に管理された人工気象室内で5日間緑化させ、次いで18～30の紫外線透過フィルム温室内で生育させた。(4)の出芽後処理は温室内に移動する前に実施した。各処理区5反復で実施し、播種17日後に根を洗浄し、各区50本について葉齢、草丈、根長を測定した。結果を表8に示す。